

*** ブラッシャー望遠鏡に同架された16cm天体写真儀のレンズ発見**

アーカイブ室新聞第251号にブラッシャー天体写真儀について記事を書いた。その記事を見た元東京天文台職員の香西洋樹氏から写真1のブラッシャー望遠鏡に同架された手前の短い望遠鏡は香西氏が富田弘一郎氏と載せた天体写真儀望遠鏡で、レンズはアストロ・テッサーという優れた写真レンズを持ったもので本来はブラッシャー望遠鏡には着いていなかったものだと知らせてくれた。

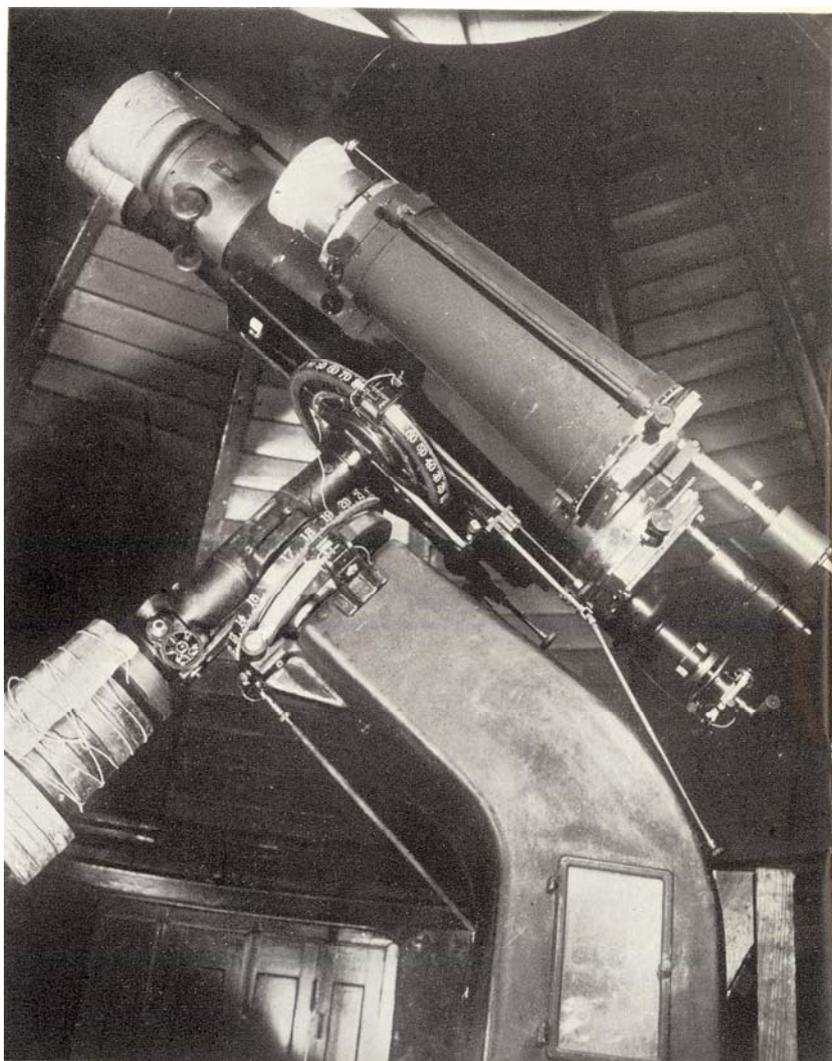


写真1 ブラッシャー天体写真儀

この知らせを聞いて、アストロ・テッサーというレンズには覚えがあった。アーカイブの仕事始めてすぐ、天文情報センター長の渡部潤一氏から富田さんからレンズをいくつか渡されて保管していると、段ボール箱に入った何本かのレンズを渡されたことがあり、

その中にアストロ・テッサーというレンズがあったのである。さっそくそのレンズ(写真2)を出してみると写真3のように Astro Tessa とあるではないか。



写真2 富田氏から渡部氏に託されたレンズ



写真3 レンズの名盤

すぐに香西氏に口径 16cm、焦点距離 81cm のツアイスのレンズが筆者の手元にあると返事をしたところ、口径、焦点距離も香西氏の記憶とぴったりであった。ブラッシャー望遠鏡

本体は、米国で特に天体写真用に設計された赤道儀望遠鏡で口径 20cm、焦点距離 127cm、別に口径 15cm、焦点距離 182cm の案内望遠鏡と優秀な時計仕掛けを持っていたとあり、確かに 2 本の望遠鏡であり、同架された望遠鏡はこれら 2 本の望遠鏡より短い。写真 1 の望遠鏡に同架された天体写真儀のレンズが発見されたことは確かである。現在、国立科学博物館に収蔵されているブラッシャー望遠鏡が写真 4 である。



写真 4 国立科学博物館に保管されているブラッシャー望遠鏡

レンズは発見されたが鏡筒は発見されていない。恐らく破棄されてしまったと思われる。レンズは転用できるので富田氏が外して保管していて、定年退職の際、渡部氏に託したものであると思われる。レンズがこのように残っていることはむしろ少ないのである。今回の場合はメーカー、口径、焦点距離などデータが確認できたが、レンズは残っているが鏡筒がない、その逆に鏡筒があるがレンズがないという場合が多い。富田氏から渡部氏に託された他のレンズについても香西氏は情報を寄せてくれた。そのレンズについては項を改めて報告したい。

筆者が発掘したレプソルド子午儀も発見時には対物レンズがなかったが、その後の探索の結果、発見された。

このように、アーカイブ室新聞を介して情報が寄せられることが増えてきて嬉しい限りである。読者に感謝する次第である。